特42
456

訂正
觀世流謠曲百拾番

清經

ま5ス

清經

第八　室町塩路のうち波八重の塩路

[illegible]室よりいさゝか海内　是也

浦賀奉行所

右中將清經乃侍門より淡津の

[illegible]者さて[illegible]ねも頼ちう清經

いづこゝ築紫に軍を討まき行給へ

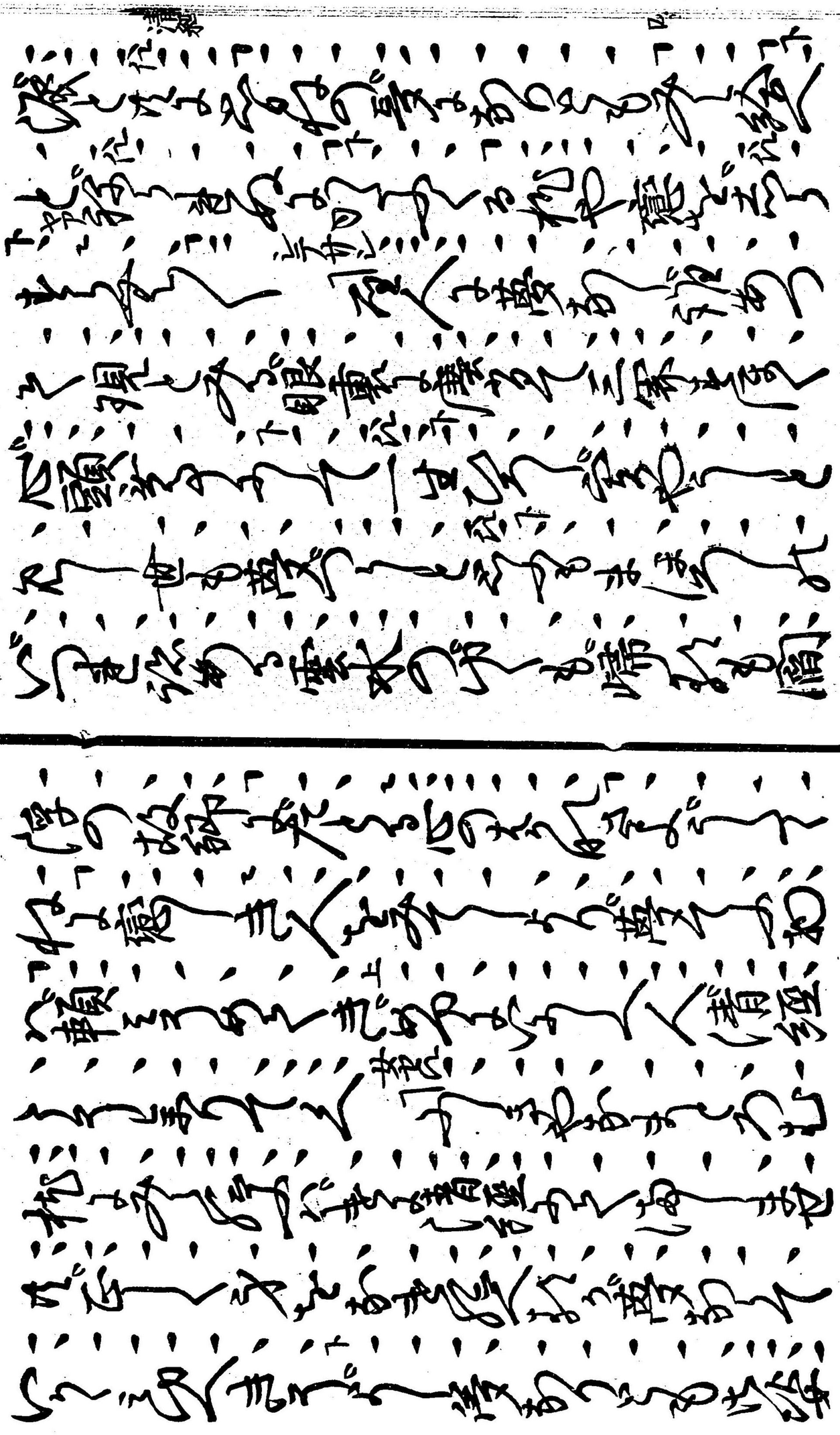
はゝ海ゝ道さて乃雜兵のまに〳〵ゝ

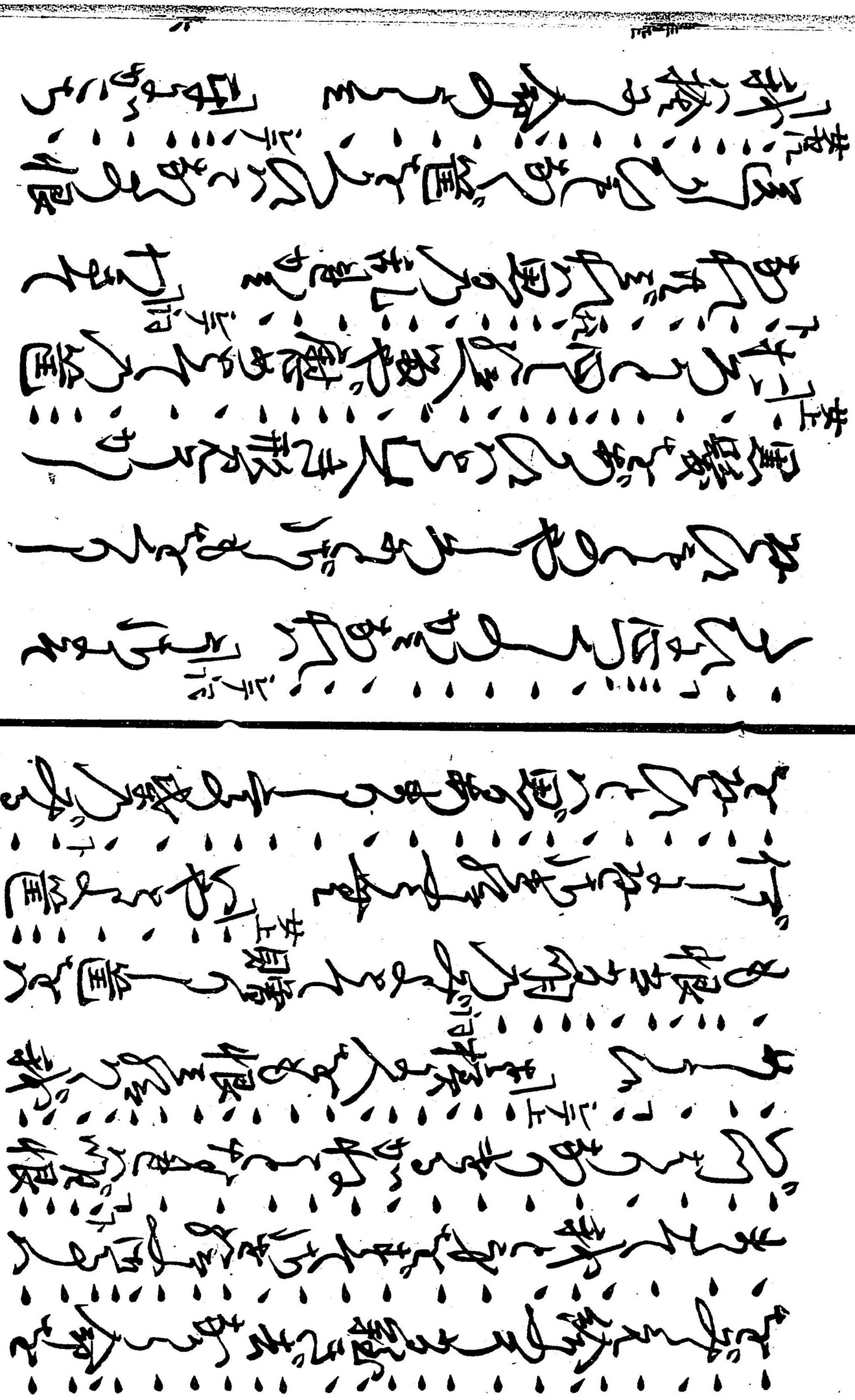
よりいと思召さるゝか豊前国柳か浦の
沖にして更行月の夜舟より身を投
空しく成給ひて候又船中を見奉れは
御形見に鬢乃かミを残し置れて候
かひなき命たもちつゝ御髪を捧けて
都へ上り候 此程は都のも夜かよ
別てうく隔つる古郷に着の空よ

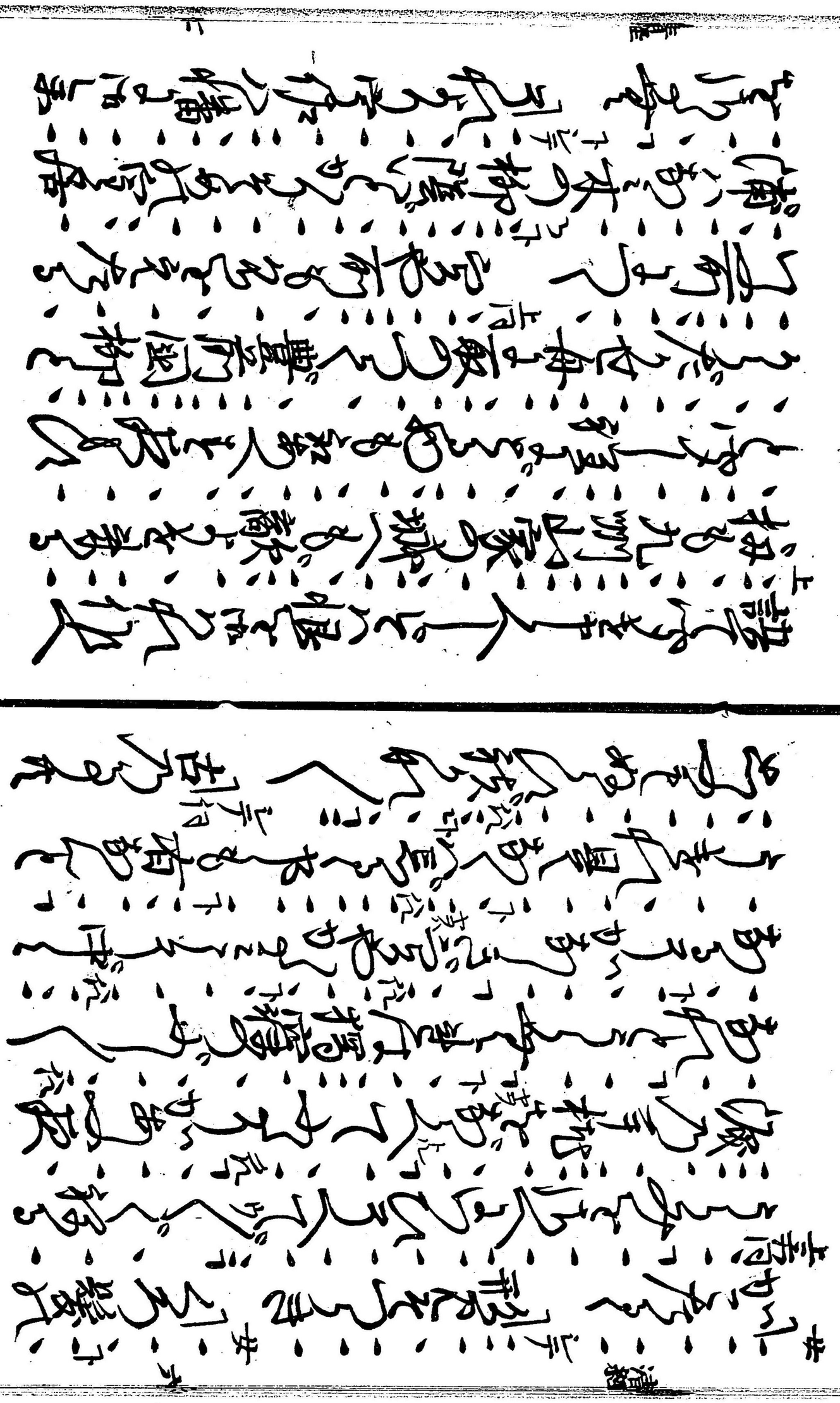
たゝ
ちりくくにおもき衣笠きて財奴
かる極哀さまる雑れ寄のきてを悲
くなりけり 急候程に是ハ
はや都に着て候やかて御所に参らう
より淡津の三郎かまかりくたりて候
御上へ 何淡津の三郎とや人伝
ならて此方へ来れ扨只今は何の為

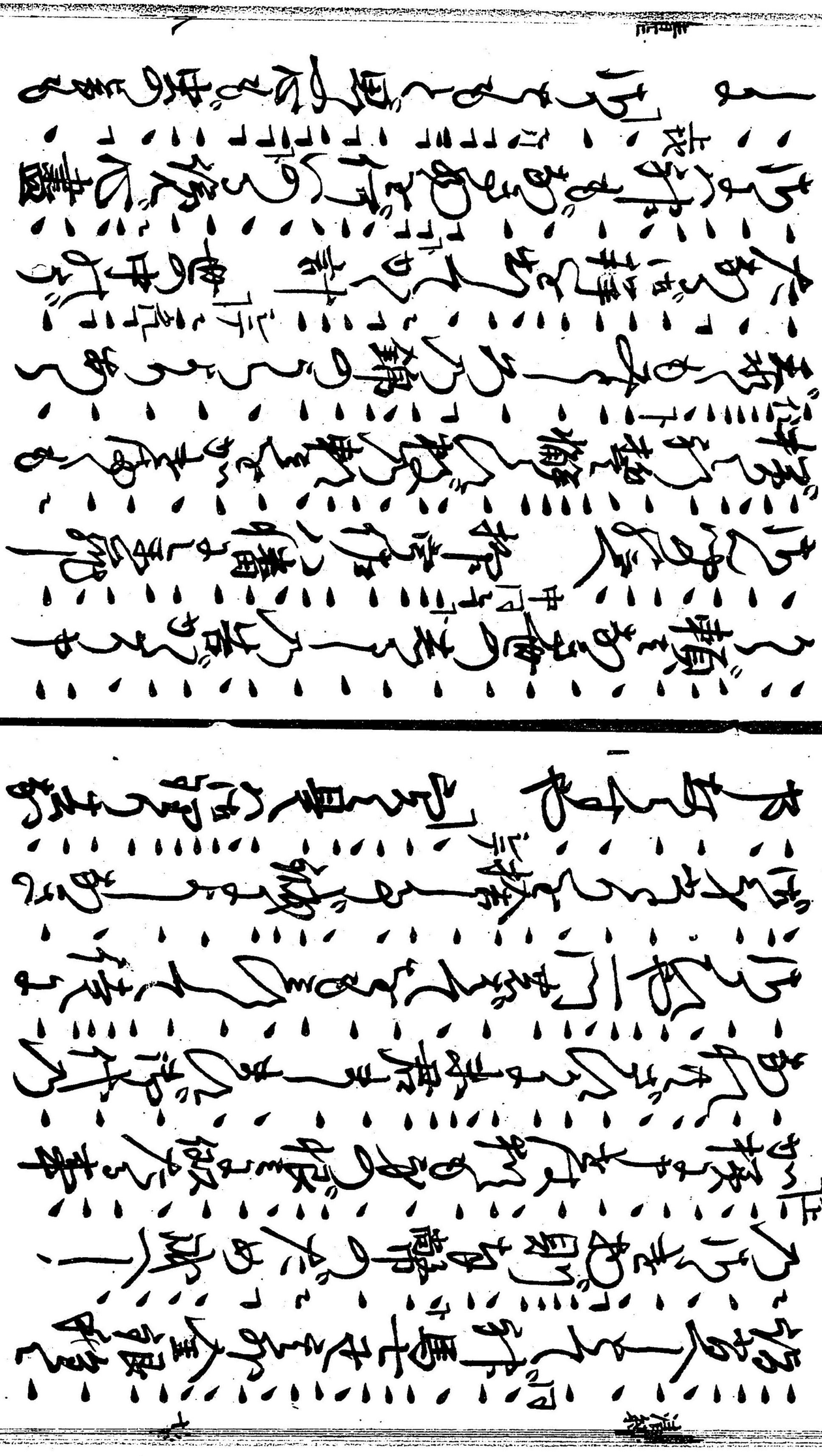
つは使ふて方ふ　はりん面目もなさは
使よしまりく　面目もなきは使と
ぞつは道世ふく方　いや術道世ふ
てもは何なく　道ふ筑紫の軍
みもはつらあきと　はりんと
み筑紫の軍みもはつらは何なく
ひ清經は思ふ　都へは迎ふ

ぬ道世ふ新兵のまはかふ世よりへ
と思ふききるか豊前国柳ヶ浦の沖
みて使ひ月ふ使ふりまを投定
知成ひく行をあき宣敷か
ひたるやうふめやきめて計き
きふやまの底ふ家も清ふ
ガふは思へきよ我とまきふ



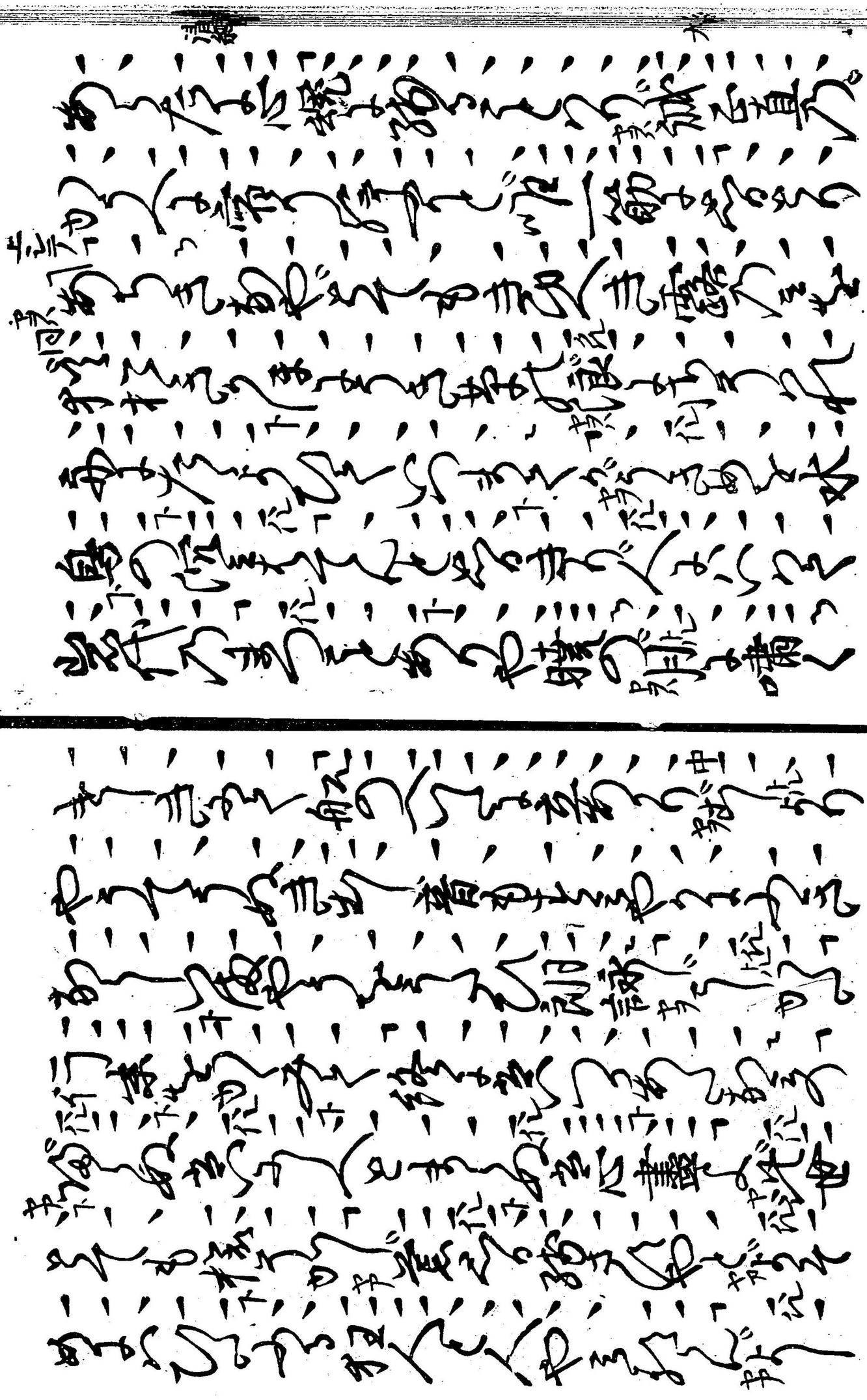


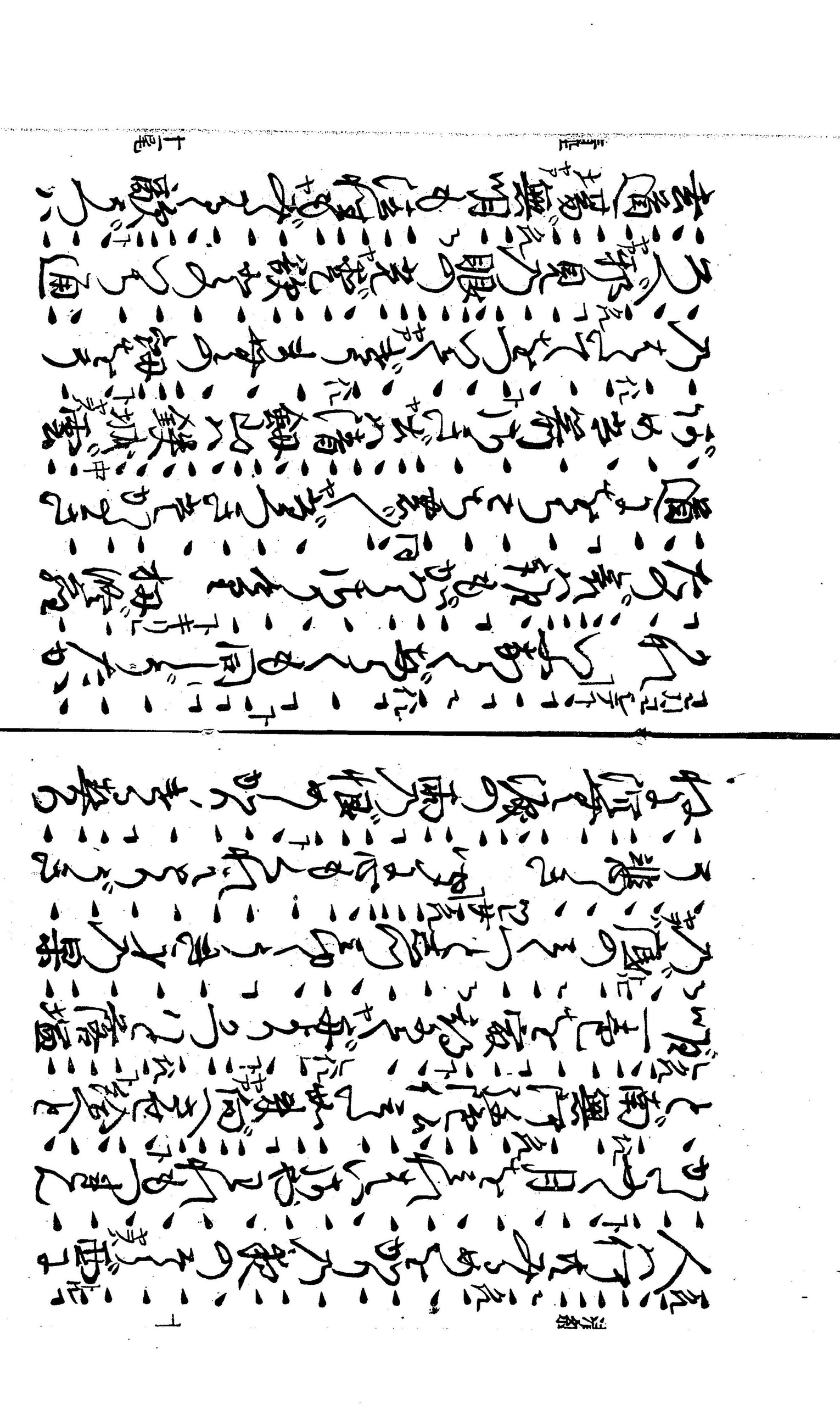




よろづ事あり　秋の意ふ　備へ給ふ
三寶も捨ぶ給ふ　心ほうらて門へ
氣色　あひ力を　打て　乞ふ車
ばとてくと　富士　事あり　ある気ハ
宮殿　ゆかり　きく　廟　裏門　奥へ
歌　舟よ　乞　事　いて
ものたし　心　うちう　気ある

ぎやうや　世中のつる　夢　社　あれ　桜　乞
去の　花　青永の　秋　紅葉　て　散　よ
あり　宮　一　堂　舟　あ　柳　浦　秋
門　風　手　か　ま　ある　波　ちま
き　ある　松　乞　ある　ある
多　乞　所　き　寒　清經　心　よて
めく　思　やう　ま　ても　情　ば　浅宣





[illegible]西海四海の因果をとみを
[illegible]や誠に家朝は十会うれ
[illegible]ぬ南法乃身よ願うまゝよ嬉ひもあく
[illegible]
[illegible]
[illegible]仏果をえうゝあり[illegible]きれ

右之本者觀世太夫織部以章句
眞本令版行畢
天保十一庚子歳孟春改正再板
皇都二条通御幸町西江入町
旧
山本長兵衛

板權所有

明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届
東京市麹町區飯田町四丁目壱番地
宮内省御用達
定價三錢五厘
訂正者 觀世清廉
發行者 京都市上京區二条通御幸町西一番戸
印刷者 檜常之助